

3 果樹

1) りんご

(1) 防除法 (殺菌剤)

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
赤 星 病	4月上旬 開花直前・ 落花直後 落花直後 随時	○ 中間宿主（びゃくしん類）上の赤星病を防除する（備考欄）。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 DMI 剤（DMI 剤の使い方 参照） DMI 混合剤（DMI 剤の使い方 参照） トレノックスフロアブル チオノックフロアブル ○ りんご園周辺にある中間寄主（びゃくしん類）を伐採する。	○ びゃくしん類にバシタック水和剤 75 を冬孢子堆膨潤前に散布する。
うどんこ病	落葉期間 (11 月~3 月) 発芽 2 週間以降 開花直前~ 落花 25 日後 随時	○ 被害新梢は、先刈りする。 ○ 第一次発生による被害部は、見つけ次第摘除する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 DMI 剤（DMI 剤の使い方 参照） DMI 混合剤（DMI 剤の使い方 参照） QoI 剤 ユニックス顆粒水和剤 4 7 ○ 被害花葉、被害新梢を剪除する。	○ QoI 剤の使用は年 2 回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）
褐 斑 病	落葉期間 (11 月~3 月) 落 花 期 5 月中旬 ~6 月中旬 6 月下旬 ~9 月	○ 本病の第一次伝染源となる前年の被害落葉を処理する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アントラコール顆粒水和剤 オーソサイド水和剤 8 0 セルカディス D フロアブル - DMI 剤（DMI 剤の使い方 参照） オンリーワンフロアブル ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル デランフロアブル（右備考参照） - Qo 1 剤 ファンタジスタ顆粒水和剤 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティ水和剤 アリエッティ C 水和剤 オーソサイド水和剤 8 0 キノンドー顆粒水和剤 キノンドー水和剤 80 キノンドーフロアブル ドキリンフロアブル オキシラン水和剤 - Qo 1 剤 ストロビードライフロアブル フリントフロアブル 2 5 ツインバリアー水和剤 パレード 1 5 フロアブル フルーツガード WDG ナリア WDG	○ 本病の第一次感染は 5 月上旬頃から始まり、5 月下旬頃最盛期を迎える。前年本病の発生が多かった園地では、5 月下旬にオンリーワンフロアブル（DMI 剤）又はデランフロアブルを散布する。 ○ Qo 1 剤使用は、年 2 回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止） ○ Qo 1 剤使用は、年 2 回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
褐 斑 病	7月以降 6月下旬 ～7月中旬 9月中旬以 降（特散）	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 パスポート顆粒水和剤 ベルコート水和剤 ベルコートフロアブル ダイパワー水和剤 ○ 次の薬剤を散布する。 I C ボルドー 4 1 2 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ストライド顆粒水和剤 ユニックス顆粒水和剤 4 7	○ パスポート顆粒水和剤は散布によりサビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後 20 日までの間は散布を避ける。 ○ ストライド顆粒水和剤は高温時に散布すると落葉を助長するおそれがあるので避ける。
黒 星 病	落葉期間 開花期間 ～落花期 落花期 ～5月下旬 5月下旬 ～6月中旬 6月下旬 ～9月 7月 7月～9月	○ 被害葉は集めて適正に処分する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 DMI 剤（DMI 剤の使い方 参照） DMI 混合剤（DMI 剤の使い方 参照） ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル セルカデイス D フロアブル カナメフロアブル Qo 1 剤 ファンタジスタ顆粒水和剤 フルーツセイバー ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アントラコール顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 Qo 1 剤 ファンタジスタ顆粒水和剤 フルーツセイバー フルーツガード WDG ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティ C 水和剤 オーソサイド水和剤 8 0 キノンドーフロアブル キノンドー水和剤 8 0 ドキリンフロアブル オキシラン水和剤 ○ 次の薬剤を散布する。 パスポート顆粒水和剤 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ベルコートフロアブル ダイパワー水和剤 ストロビルリン系剤 フリントフロアブル 25 Qo 1 剤 ナリア WDG	○ 園内を随時巡回して早期発見に努め、被害葉や被害果は直ちに集めて適正に処分する。 ○ Qo 1 剤の使用は、年 2 回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止） ○ パスポート顆粒水和剤は散布によりサビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後 20 日までの間は散布を避ける。
黒 点 病	落葉時期 (11～3 月) 5月中旬 ～6月中旬	○ 園地の清掃を行う。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 オーソサイド水和剤 8 0 ダイパワー水和剤 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル Qo 1 剤 ストロビードライフロアブル フリントフロアブル 25 ファンタジスタ顆粒水和剤 ナリア WDG パスポート顆粒水和剤 フルーツセイバー	○ 園内を随時巡回して早期発見に努め、被害葉や被害果は直ちに集めて適正に処分する。 ○ Qo 1 剤の使用は、年 2 回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止） ○ 落花 15 日頃、落花 25 日頃はサビがでやすいので細霧で散布する。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
すす点病 すす斑病	6月～7月 6月～9月 7月 7月以降 随時	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アントラコール顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティC水和剤 ストライド顆粒水和剤 オーソサイド水和剤 80 キノンドー顆粒水和剤 キノンドー水和剤 80 キノンドーフロアブル ドキリンフロアブル オキシラン水和剤 - Qo1 剤 ストロビードライフロアブル フリントフロアブル 25 ツインバリアー水和剤 ナリアWDG フルーツセイバー ○ 次の薬剤を散布する。 パスポート顆粒水和剤 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ベルクート水和剤 ベルクートフロアブル ダイパワー水和剤 ○ 有袋栽培では、薬剤を十分散布してから直ちに被袋する。 ○ 密植園、多湿園では発生が多いので改善する。	○ 散布間隔をあけすぎたり、最終散布を早く切り上げたりしない。 ○ ストライド顆粒水和剤はサビ果発生防止のため開花後から落花 30 日までの散布は避ける。高温時に散布すると落葉を助長するおそれがあるので避ける。 ○ Qo1 剤の使用は、年 2 回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止） ○ パスポート顆粒水和剤は散布によりサビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後 20 日までの間は散布を避ける。
炭 疽 病	6月～7月 6月～9月 7月 7月以降 6月下旬～7月中旬 7月～9月	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 デランフロアブル ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティC水和剤 ストライド顆粒水和剤 オーソサイド水和剤 80 キノンドー顆粒水和剤 キノンドー水和剤 80 キノンドーフロアブル ドキリンフロアブル オキシラン水和剤 - Qo1 剤 ストロビードライフロアブル フリントフロアブル 25 ツインバリアー水和剤 ナリアWDG ○ 次の薬剤を散布する。 パスポート顆粒水和剤 ○ 次の薬剤を散布する。 ダイパワー水和剤 ○ 次の薬剤を散布する。 ICボルドー 412 ○ 次の薬剤を散布する。 ベフキノン水和剤 ○ りんご園周辺にあるニセアカシア、クルミ類、イタチハギ等を伐採する。	○ ストライド顆粒水和剤はサビ果発生防止のため開花後から落花 30 日までの散布は避ける。樹勢が弱い樹では、梅雨明け頃の高温時に散布すると落葉を助長するおそれがあるので避ける。 ○ Qo1 剤使用は、年 2 回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）。 ○ パスポート顆粒水和剤は散布によりサビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後 20 日までの間は散布を避ける

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
腐らん病	剪定時病患部削り取り直後 剪定時病患部削り取り直後 随時 休眠期	○ 次の薬剤いずれかを塗布または噴射する。 トップジンMオイルペースト（原液） トップジンMペースト（原液） バッチレート（原液） ○ 次の薬剤を噴射する。 フランカックスプレー ○ 発生園では、病患部の削り取りや被害枝を剪定して適正に処分する。 ○ 次の薬剤を散布する。 石灰硫黄合剤	
胴枯病	随時	○ 発生園では、病患部の削り取りや被害枝を剪定して適正に処分する。	
モニリア病	落葉期間 (11月~3月) 発芽直後~ 発芽 10 日 後 開花直前 随時	○ 園内を清掃し、清耕とする。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ストライド顆粒水和剤 パスポート顆粒水和剤 ○ 葉腐れ発生園や例年本病が多発する園は上記の防除に引き続き次の薬剤いずれかを散布する。 アンビルフロアブル QoI 剤 フルーツセイバー ○ 葉腐れ、花腐れは第二次伝染源、実腐れ、株腐れは翌年の発生源となるので、地面に落ちないうちに摘みとり適正に処分する。	○ 発芽直後の散布は遅れないようにする。 ○ アンビルフロアブル以外のDMI 剤はDMI 剤の使い方参照 ○ QoI 剤の使用は、年 2 回までとし、連用しない。 (耐性菌出現防止)
紋 羽 病 (白紋羽病) (紫紋羽病) (白紋羽病、紫紋羽病)	植付前 苗木消毒 発病初期 発病初期 発病初期	○ 植付予定地を約 60cm の深さに耕起、整地し、30×30cm ごとに深さ 30~40cm の位置に、クロールピクリンを 5~10ml 注入して直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニールなどで被覆する。処理後 20 日以上経過してから植え付ける。 ○ 次の薬剤を根部浸漬し、直ちに植え付ける。 ベンレート水和剤 ○ 露出させた根の病患部を削り取り、落花直後までにフジワン粒剤を 1 樹当たり 3~5kg 堀り上げた土壌と混和して埋め戻す。 ○ 樹幹周辺部を掘りおこし、被害根を除去した後リゾレックス水和剤を灌注する。汚染土が薬液とよく混じるように埋め戻す。収穫 60 日前であれば生育期でも処理できる。 ○ フロンサイド S C を樹幹から半径 1m 程度の範囲に土壌灌注する。 ○ 被害が極めて軽度な場合は、被害根を露出して被害部を除去しそのまま半年~1 年放置してから覆土する。	○ 被害跡地の消毒は、整地前に被害根を完全に取り除いてから行う。 ○ 処理はできるだけ高温時に行う。 ○ 治療樹は、樹勢が回復するまで果実をつけず肥培管理を行う。また、常に検診を行い再発に注意する。 ○ 本病の治療は発病の初期でないと効果が期待できないので、常に検診を行い、早期発見に努める。 ○ フジワン粒剤は苗木に対して移植時に処理すると薬害を生ずる場合があるので、移植 1 年後以降に処理する。
斑点落葉病	落葉期間 (11月~3月) 落 花 期 5 月下旬 ~6 月中旬	○ 園地の清掃を行う。 ○ 剪定時に不必要な徒長枝は剪除する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 DMI 混合剤(DMI 剤の使い方参照) トレノックスフロアブル チオノックフロアブル セルカディス D フロアブル カナメフロアブル ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アントラコール顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル	

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
斑点落葉病	5月下旬 ～6月中旬 6月上旬 ～6月中旬 6月下旬 ～7月中旬 7月以降 6月下旬 ～9月中旬 9月中旬以 降（特散） 随時	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 Qo1 剤 ファンタジスタ顆粒水和剤 ツインバリアー水和剤 パレード15フロアブル フルーツセイバー ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティC水和剤 アントラコール顆粒水和剤 オーソサイド水和剤80 Qo1 剤 ファンタジスタ顆粒水和剤 フルーツセイバー フルーツガードWDG ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 4-12式ボルドー液 ICボルドー412 デランフロアブル パスポート顆粒水和剤 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ベルコート水和剤 ベルコートフロアブル ダイパワー水和剤 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティC水和剤 ストライド顆粒水和剤 オーソサイド水和剤80 キンセツ水和剤80 キノンドー顆粒水和剤 キノンドーフロアブル キノンドー水和剤80 ドキリンフロアブル オキシラン水和剤 Qo1 剤 ストロビードライフフロアブル フrintフロアブル25 ナリアWDG ユニックス顆粒水和剤47 ○ 有袋栽培で果実に発生を認めた場合は、直ちに除袋し、薬剤を散布する。 ○ 樹冠内部の不必要な徒長枝は剪除する。	○ Qo1 剤使用は、年2回までとし、連用しない。 （耐性菌出現防止）。 ○ ボルドー液と他の殺菌剤との交互散布はしない。 ○ パスポート顆粒水和剤は散布によりサビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後20日までの間は散布を避ける。 ○ ストライド顆粒水和剤はサビ果発生防止のため、開花後から落花30日までの散布は避ける。樹勢が弱い樹では、梅雨明け頃の高湿時に散布すると落葉を助長するおそれがあるので避ける。 ○ キンセツ水和剤80は薬害軽減のためクレフノンを必ず加用する。
輪 紋 病	落葉期間 (11月～3月) 6～8月 7月	○ 剪定枝は園内に放置しない。 ○ 剪定時には被害枝を剪除する。 ○ 3～5年枝を中心にいぼ枝を削り取る。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティC水和剤 キノンドー顆粒水和剤 キノンドーフロアブル キノンドー水和剤80 ドキリンフロアブル オキシラン水和剤 Qo1 剤 ストロビードライフフロアブル フrintフロアブル25 ツインバリアー水和剤 フルーツガードWDG ナリアWDG ○ 次の薬剤を散布する。 パスポート顆粒水和剤	○ 薬剤は、枝幹、果実に十分にかかるように散布し、剪定した被害枝は園内に放置しない。 ○ Qo1 剤使用は、年2回までとし、連用しない。 （耐性菌出現防止）。 ○ パスポート顆粒水和剤は散布によりサビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後20日までの間は散布を避ける。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
輪 紋 病	7月以降 6月下旬 ～7月中旬	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 シトラノフロアブル ベルコート水和剤 ベルコートフロアブル ダイパワー水和剤 ○ 次の薬剤を散布する。 I Cボルドー412	○ シトラノフロアブルは 樹勢が弱い樹では連続散 布すると落葉することが あるので注意する。

(りんご) DMI 剤の使い方

薬 剤 名		赤星病	うどんこ病	褐斑病	黒星病	モニリア病	斑点落葉病
D M I 剤	アンビルフロアブル	◎	◎		◎	◎	○
	インダーフロアブル	◎	◎	○	◎	○	○
	オーシャイン水和剤	◎	◎		◎	○	○
	オンリーワンフロアブル		◎	◎	◎	○	○
	サルバトーレME	◎	◎		◎	○	
	サンリット水和剤	◎	◎	○	◎		○
	スコア顆粒水和剤	◎	◎		◎	○	○
	マネージDF	◎	◎		◎		
	ラリー水和剤	◎			◎		○
D M I 混 合 剤	+マンゼブ						
	ブローダ水和剤	◎	◎		◎	○	○
	スコアMZ水和剤	◎			◎		○

◎：効果が高い

注) DMI 剤及び DMI 混合剤は耐性菌出現防止のため、年間2回以内の使用とする。